



viscount®

ヴァイカウントクラシックオルガン

Jubilate



ジュビレイト332S 取扱説明書


はじめに


このたびは、ヴァイカウントクラシックオルガン、ジュビレイト332Sをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ジュビレイト332Sは、伝統的なパイプオルガンの魅力を最新の電子テクノロジーによってあますところなく再現したクラシックオルガンです。ジュビレイト332Sの多彩な機能をスムーズに使いこなし、オルガン演奏を心ゆくまでお楽しみいただくために、ぜひこの取扱説明書をご活用いただきますようお願い申し上げます。また、ご一読いただいた後も、ご不明点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

※この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。

安全上のご注意…ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」をお読みください。

| | | |
|---|------------|--|
|  | 注 意 |  |
| 感電のおそれがあります。キャビネットを開けないでください。 | | |
| 警告！感電の危険を避けるため： パネルやカバーは取り外さないでください 本製品を雨または湿気にさらさないでください 本製品内部につきまして、お客様は修理・交換なされないでください。 | | |
| 修理・点検につきましては販売店にご相談ください | | |

| | |
|---|--|
|  | 本製品の取扱説明書では、重要な操作および修理・点検上の指示に関して、お客様への注意を喚起するため本記号を表示しています。 |
|---|--|

| | |
|---|---|
|  | 本製品内部には絶縁されていない「危険な電圧」部分が存在し、感電のおそれがあるため、お客様への注意を喚起するため本記号を表示しています。 |
|---|---|

「火災、感電のおそれ、あるいは人体への危害に関する注意事項」

警告：本製品のご使用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 1) 本製品を使用する前に取扱説明書をよくお読みください。
- 2) お子様の近くで使用する場合には、ケガ防止のため十分な注意を払ってください。
- 3) 本製品は水回りでは使用しないでください。例えば浴槽、洗面台、台所の流し付近、濡れた床の上、あるいはプールの近く、その他これに類する場所では使用しないでください。
- 4) 本製品は、単独もしくはアンプ、ヘッドホン、スピーカーと組み合わせて使用した場合、過大な音量により聴力障害を引き起こすおそれがあります。過大な音量、または不快感を招くような音量での長時間の使用は避けてください。
- 5) 本製品はラジエーター、熱器具、その他熱を発生する製品から離して設置してください。
- 6) 長時間ご使用にならない場合には、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 7) 本体に物を落としたり、液体が流れ込まないように十分注意を払ってください。
- 8) 以下の場合、サービス担当者が本製品の修理・点検を行います。
 - a. 電源コードまたはプラグが破損した場合
 - b. 製品に物が落ちたり、液体が流れ込んだ場合
 - c. 製品が雨にさらされた場合
 - d. 製品が正常に作動していない、あるいは演奏状態に著しい変化が生じた場合
 - e. 製品を落としたり外装が破損した場合

目次

| | |
|-------------------------------|-----|
| パネル図 | P4 |
| 第1章 左側パネルのコントローラー | P6 |
| 第2章 中央パネルのコントローラー | P6 |
| 第3章 右側パネルのコントローラー | P9 |
| 第4章 手鍵盤部パネルのコントローラー | P10 |
| 第5章 ペダルおよびピストン部のコントローラー | P12 |
| 第6章 トウッティとクレッシェンドのプログラム | P12 |
| 第7章 サイドパネルのコントローラーと接続端子 | P13 |
| 第8章 リアパネルの接続端子 | P14 |
| 第9章 リセットとローカルオフ | P15 |
| 資料 MIDIインプリメンテーションチャート | P16 |

JUBILATE 332S

P.6
第2章

- 1. ボリュームとエフェクトのコントロールスライダー
- 2. 各種MIDIボタン

P.6
第1章

- 1. 第2手鍵盤部 (MAN II・グレート) 用ストップ
- 2. 足鍵盤部 (PEDAL) 用ストップ
- 3. アンプ用スイッチ
- 4. オン・オフスイッチ

P.10
第4章

- 1. エンター・キー
- 2. ジェネラルメモリー
- 12. セット・ボタン (S)
- 3. 専用メモリー (足鍵盤)
- 4. ペダル・ボタン (P)

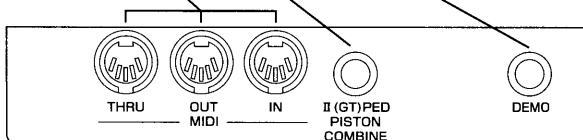
P.12
第5章

- 1. ジェネラルメモリー・ピストン
- 2. クレッシュ
- 3. 第1手鍵盤
- 4. 第3手鍵盤

P.13
第7章

左サイドパネル

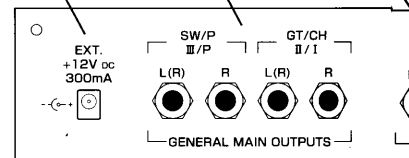
- 1. MIDIイン・アウトスルー
- 2. 第2手鍵盤メモリーから足鍵盤メモリーへ
- 3. デモ・ボタン

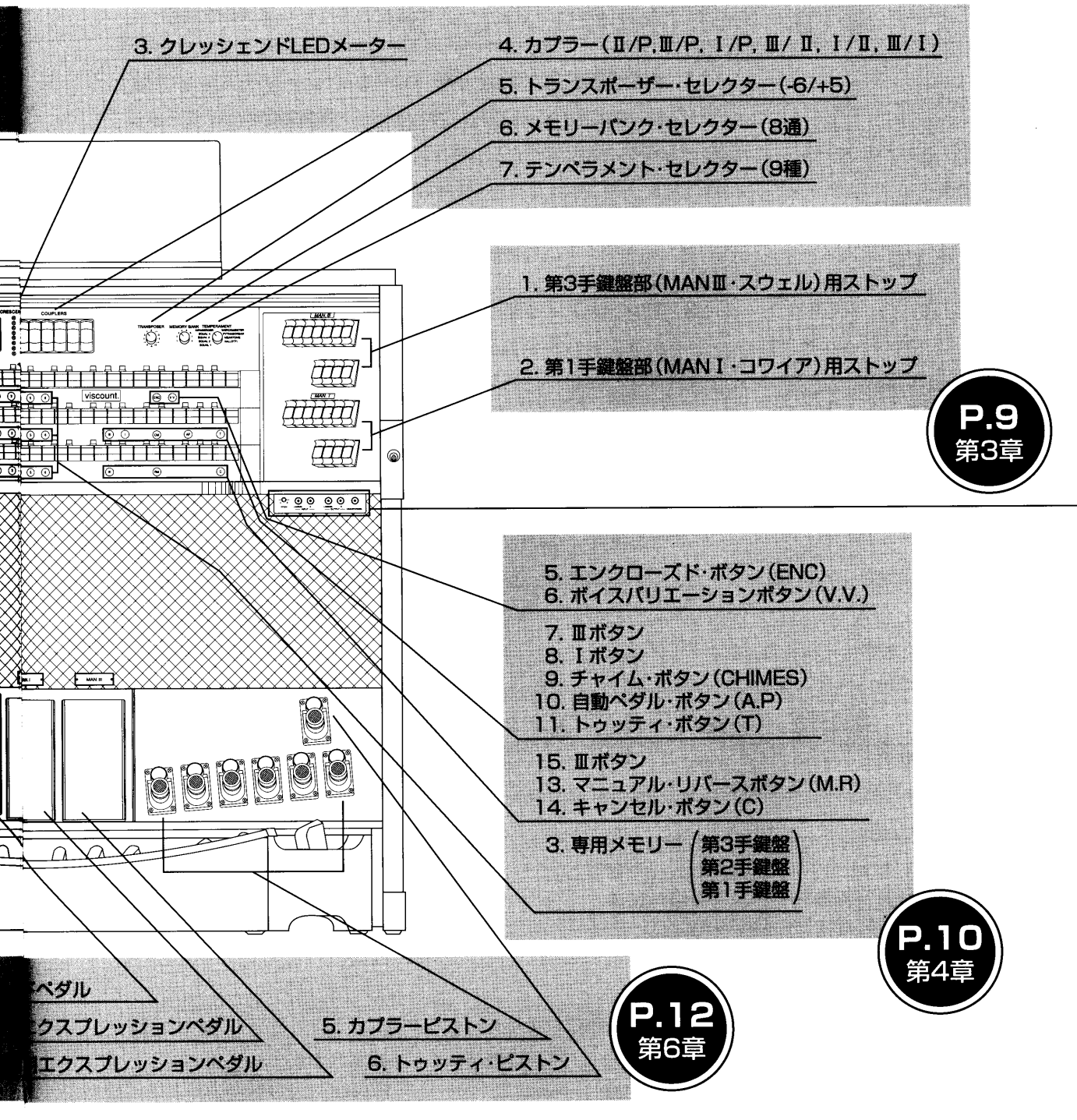


P.14
第8章

リアパネルの接続端子

- 1. EXT +12V DC コネクター
- 2. メイン・アンプ

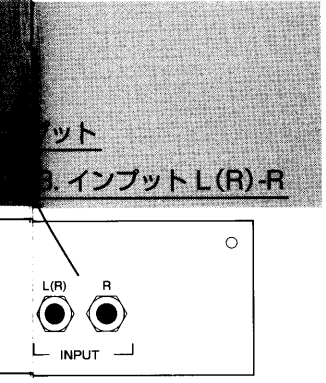




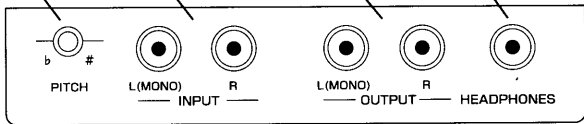
P.9
第3章

P.10
第4章

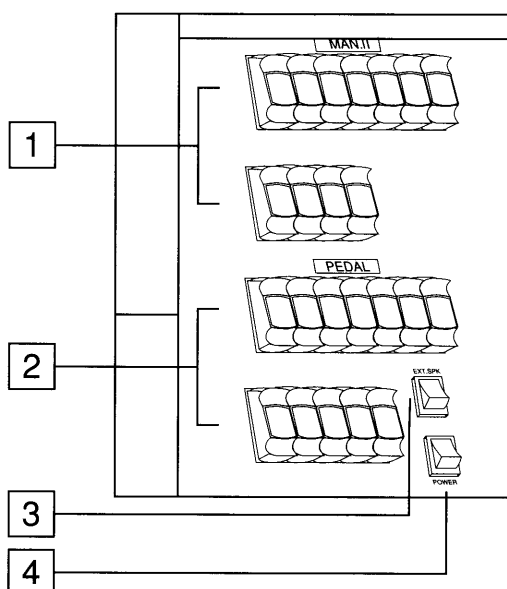
P.12
第6章



P.14
第7章



第1章 左側パネルのコントローラー



1. 第2手鍵盤部：第2手鍵盤(MANⅡ・グレート)のストップ(音栓)があります。このストップを使って、第2手鍵盤のレジストレーションを作ります。

2. 足鍵盤部：足鍵盤(PEDAL)のストップがあります。このストップを使って、足鍵盤のレジストレーションを作ります。

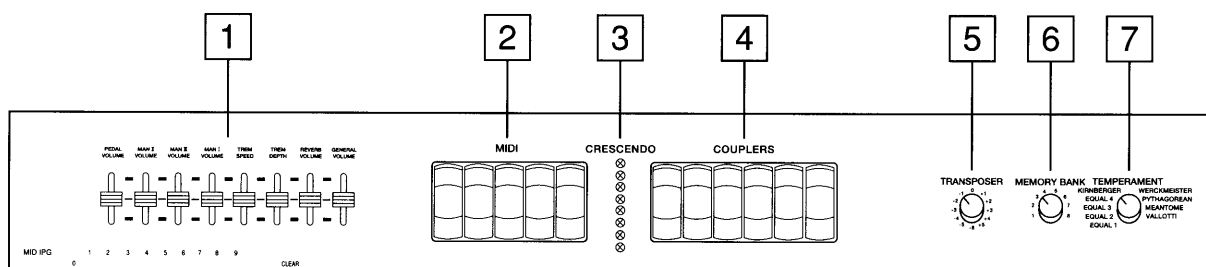
3. アンプ用スイッチ：オルガンに接続したスピーカー用のオン・オフスイッチです。

<注意>スピーカーはヴァイカウント専用スピーカーをお使いください。詳細はカタログをご覧ください。販売店にお尋ねください。

4. オン・オフスイッチ：ジュビレイト332Sのオン・オフスイッチです。

<注意!>雷が降り出したら必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

第2章 中央パネルのコントローラー



1. ボリュームとエフェクトのコントロールスライダー：各鍵盤のボリュームおよびトレモロやリバーブなど、最も重要なパラメーターをコントロールすることができます。以下の8つのスライダーがあります。

- ・足鍵盤(PED)ボリュームスライダー：足鍵盤の音量を調節します。
- ・第2手鍵盤(MANⅡ・グレート)用ボリュームスライダー：第2手鍵盤の音量を調節します。
- ・第3手鍵盤(MANⅢ・スウェル)用ボリュームスライダー：第3手鍵盤の音量を調節します。
- ・第1手鍵盤(MANⅠ・コワイア)用ボリュームスライダー：第1手鍵盤の音量を調節します。
- ・トレモロ速さ(TREM SPEED)スライダー：トレモロの速さを調節します。
- ・トレモロ深さ(TREM DEPTH)スライダー：トレモロの深さを調節します。
- ・リバーブボリューム(REVERB VOLUME)スライダー：残響効果の音量を調節します。自然反響の少ない室内でも、広い部屋やホールで演奏しているような豊かな残響の効果を得ることができます。
- ・全体ボリューム(GENERAL VOLUME)スライダー：オルガン全体の音量を調節します。

2. 各種MIDIボタン：このボタンでジュビレイト332SのMIDI機能を作動させます。ボタンには以下のものがあります。

・ **MIDI PG Send：**プログラムチェンジデータ送信用ボタン。MIDIインターフェイスによって外部MIDI機器にプログラムチェンジデータを送信するには、このボタンを押すと同時に、変更したいセクション(足鍵盤、第1手鍵盤、第2手鍵盤、第3手鍵盤)のMIDIボタンを同時に押します。次いで、選んだセクションのMIDIボタンが点滅し始めたら、エンター・キー(第4章1項「エンター・キー」を参照ください)を使って、チャンネルあるいはプログラム番号を入力します。そして3番目のキーを押す、つまり、3つ目の番号が入力されると、MIDIボタンの点滅が止まり、プログラムチェンジメッセージが送信されます。

<注意>

プログラムチェンジ・メッセージは、エンターキーで3番目のキーを押さないと送信されません。たとえば、プログラムチェンジ番号30を送信したい場合、0-3-0とキーを押さなければなりません。

・ **MIDIから足鍵盤へ(MIDI to Pedal)：**このMIDIボタンを押せば、足鍵盤にMIDIデータを送信し、そのデータにMIDIチャンネルを割り当てることができます。

手順は以下の通りです。

・ MIDIボタンを押しながら、第1手鍵盤の下にあるセット・ボタン(S)を押します。MIDIボタンが点滅を開始したら、希望するMIDIチャンネルの番号を入力することができます。

・ チャンネル番号は、各番号に対応したエンター・キーを押して入力します。エンター・キーは第2手鍵盤の最も低いオクターブのCからAまでのキーで、それぞれ0~9に対応しています。また次のCは、クリア機能を持ち、最後に入力した操作がキャンセルされます。

・ 入力したい番号が一桁の場合、たとえばチャンネル6と入力したい場合には、数字0(最低音C)と数字6(最低音F#)のキーを押す必要があります。2番目の数字が入力されると、MIDIボタンの点滅が止まり、チャンネル番号が記憶されます。

・ **MIDIから第1手鍵盤へ(MIDI to Man. I)：**このボタンを押せば、第1手鍵盤にMIDIデータを送信し、そのデータにMIDIチャンネルを割り当てることができます。手順は、前述 MIDI to Pedal の項と同様です。

・ **MIDIから第2手鍵盤へ(MIDI to Man. II)：**このボタンを押せば、第2手鍵盤にMIDIデータを送信し、そのデータにMIDIチャンネルを割り当てることができます。手順は、前述 MIDI to Pedal の項と同様です。

・ **MIDIから第3手鍵盤へ(MIDI to Man. III)：**このボタンを押せば、第3手鍵盤にMIDIデータを送信し、そのデータにMIDIチャンネルを割り当てることができます。手順は、前述 MIDI to Pedal の項と同様です。

■MIDIについて

MIDIとはMusical Instrument Digital Interfaceの略です。

MIDI(ミディ)は、電子楽器同士をつないで音楽情報や演奏データを交換するための世界共通の規格。楽器同士の互換性がアップします。たとえばジュビレイト・オルガンの鍵盤で演奏したメロディを別のシンセサイザーで発音させたり、ジュビレイト・オルガンで市販のMIDIデータを再生することができます。

以下、MIDIに関して頻繁に使われる用語を説明します。

- ・MIDIチャンネル：MIDI機器には16チャンネルあります。いろいろなデータのすべてがこれらの16チャンネルを通して別々に送受信されます。結果、最大16台までのMIDI機器を個別にコントロールすることができます。また当然ながら、接続したMIDI機器同士でチャンネルが違えばデータのやりとりはできません。両方のMIDI機器の送信/受信チャンネルは合わせる必要があります。

- ・ノート・オン/オフ：楽器に、どのノート(音符)を、どのくらい長く、どのくらいの強さで弾くかを伝える重要な情報です。

- ・プログラムチェンジ：プログラムの選択に使います。ほとんどの楽器がメモリーしたプログラムを持っており、それぞれがプログラム・ナンバーに対応しています。メモリーナンバーを知っていれば、好みのプログラムを呼び出すことができます。ジュビレイトでは、ジェネラルあるいは専用メモリーに割り振られたナンバーのボタンを押すことで、希望するプログラムが選択できます。

- ・コントロールチェンジ：コントロールチェンジデータは、演奏に表情をつけるために使います。たとえば、音量調整(コントロールチェンジ7番)、拡声ペダル作動(同じく64番)、残響度の送信(同じく91番)、コーラス量の送信(同じく93番)などがあります。

- ・システムメッセージ：MIDIチャンネルとは関係なく、システム全体の調整を目的としたメッセージです。この中には「システム・エクスクルーシブ」、つまり特定の楽器のみが解釈できる指令があります。たとえば、機器のプログラム作成用のバルク・ダンプ(BULK DUMP)などが挙げられます。こうした指令には、通常メモリーエリアに保存されているプログラム作成パラメーターが含まれています。指令は、上述のパラメーターを、ある機器から同じタイプの別の機器へと送るのに使われます。また、外部のメモリーに保存できます(事故等でデータが万が一紛失したり消去してしまった場合に、コンピューターやシンクサーから呼び出せます)。

3. クレッシェンドLEDメーター：クレッシェンドペダルのレベルを表示します。

4. カプラー：手鍵盤同士、あるいは手鍵盤と足鍵盤を連結するスイッチ(カプラー)があります。下記の組み合わせが可能です。

- ・II/P：第2手鍵盤(MAN II・グレート)のレジスターが足鍵盤で演奏できます。
- ・III/P：第3手鍵盤(MAN III・スウェル)のレジスターが足鍵盤で演奏できます。
- ・I/P：第1手鍵盤(MAN I・コワイア)のレジスターが足鍵盤で演奏できます。
- ・III/II：第3手鍵盤のレジスターが第2手鍵盤で演奏できます。
- ・I/II：第1手鍵盤のレジスターが第2手鍵盤で演奏できます。
- ・III/I：第3手鍵盤のレジスターが第1手鍵盤で演奏できます。

連結は、カプラー・ピストン及び手鍵盤下にあるカプラー用ボタン(I、III、P)でも行うことができます。

5. トランスポーザー・セレクター：このつまみを回して5半音まで高く、6半音まで低く移調できます。弾きにくい調を演奏する場合や歌や楽器の伴奏の際に便利です。

6. メモリーバンク・セクター：このつまみを回して、8つのメモリーバンクのうちいずれかを選択し、ジェネラルメモリーおよび専用メモリー(各手鍵盤および足鍵盤のための専用メモリー)として設定できます。

7. テンペラメント・セクター：この機能を使うと、様々な時代や国々で使われていた当時の正しい調律で演奏できます。真の古典音楽を忠実に再現したいオルガニストの方のために、ジュビレイト332Sでは、歴史的なテンペラメント(音律)を9タイプ設定しています。

・ EQUAL1, EQUAL2, EQUAL3, EQUAL4, KIRNBERGER(キルンベルガー), WERCKMEISTER(ヴェルクマイスター), PYTHAGOREAN(ピタゴラス音律), MEANTONE(ミーントーン), VALLOTTI(ヴァロッチィ)

・ EQUAL1-EQUAL2-EQUAL3：標準的な平均律に対して、純正ではない微妙なズレ(うねり)を持つ音程をシミュレーションしているため、パイプオルガン独特の不均等な音律を限りなくリアルに再現することができます。

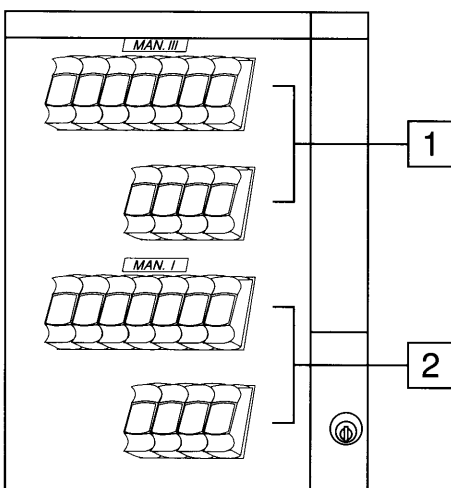
・ EQUAL4：平均律、19世紀末に発明された、12のすべて等しい半音からなる音律です。

・ KIRNBERGER(キルンベルガー), WERCKMEISTER(ヴェルクマイスター), VALLOTTI(ヴァロッチィ)：バッハ、ベートーベン、ショパンなど古典派からロマン派にかけて愛された音律です。クラシックの名曲はほとんどこれらの調性的音律によって書かれました。

・ PYTHAGOREAN(ピタゴラス音律)：ギリシャ時代の音律です。ピタゴラス音律は古代ローマに伝わって以来、中世音楽の時代にも使用されました。

・ MEANTONE(ミーントーン)：ルネッサンスからバロック時代の鍵盤楽器における標準的な調律法でした。日本語では中全音律といいます。

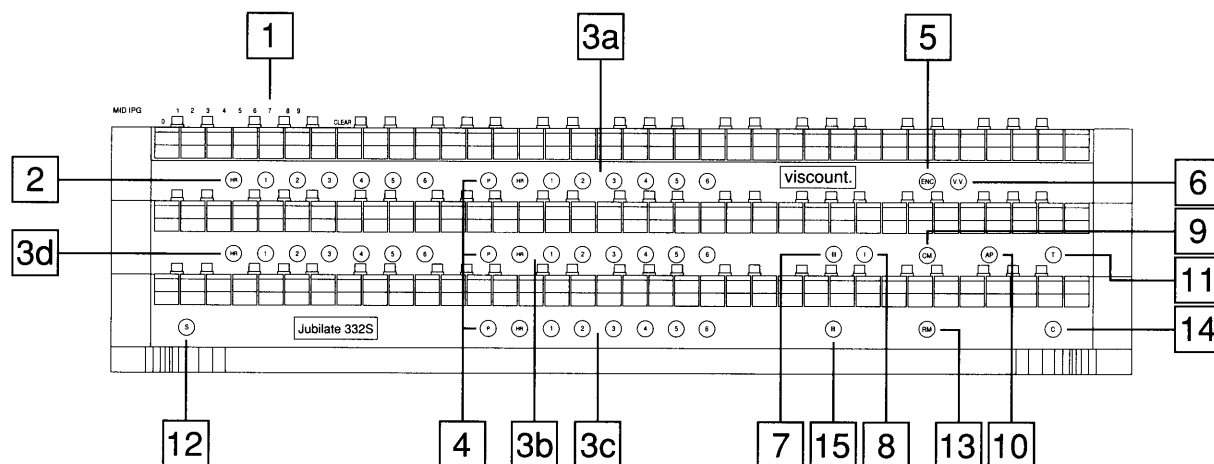
第3章 右側パネルのコントローラー



1. 第3手鍵盤部：第3手鍵盤(MANⅢ・スウェル)用のストップがあります。このストップを使って、第3手鍵盤のレジストレーションを作ります。

2. 第1手鍵盤部：第1手鍵盤(MANⅠ・コワイア)用のストップがあります。このストップを使って、第1手鍵盤のレジストレーションを作ります。

第4章 手鍵盤部パネルのコントローラー



1. エンター・キー：第3手鍵盤の左側、0～9の番号とCLEARの文字がついている鍵盤をエンター・キーと呼びます。この部分の鍵盤を押すことで、MIDIチャンネルをプログラムする際のチャンネル番号が入力できます。プログラムチェンジデータ送信の際にも使用します。詳細は第2章の「各種MIDIボタン」の項をご覧ください。

2. ジェネラルメモリー(HR ; 1-2-3-4-5-6)：作成したレジストレーションは、メモリーに保存できます。ジュビレイト332Sには、全体のレジストレーションをメモリーできる6つのジェネラルメモリーがあります。メモリーには、1から6までの数字およびHR(0として扱われる)と記されたボタンがあります。HRプッシュボタンを押せばレジストレーションは前の設定に戻ります。

ジェネラルメモリーのプログラム

- ・まずキャンセル・ボタン(C)を押し、既存のレジストレーションをいったんクリア。その後に希望するレジストレーションを選んで設定します。
- ・次に第1手鍵盤の左下にあるセット・ボタン(S)を押してください。ボタンを押しながら、6つあるジェネラルメモリーのナンバーボタンのうち、いずれかを押し、新しい設定内容を保存します。

・ジェネラルメモリーでは、複数の鍵盤のレジストレーションが保存できます。複数の演奏者が同じオルガンを使う場合でも、各演奏者は、違うメモリーバンクに違う番号をつけ、各自の設定を保存することが可能です。(第2章の「メモリーバンク・セレクター」をご参照ください)。

3. 専用メモリー(HR ; 1-2-3-4-5-6)：各手鍵盤と足鍵盤のそれぞれのレジストレーションが保存できる6つの専用メモリーがあります。3cは第1手鍵盤、3bは第2手鍵盤、3aは第3手鍵盤、3dは足鍵盤のメモリーボタンを示しています。

専用メモリーのプログラム手順も、ジェネラルメモリーのプログラムと同様です。

- ・まずキャンセル・ボタン(C)を押し、既存のレジストレーションをいったんクリア。その後に希望するレジストレーションを選んで設定します。

・次に第1手鍵盤の左下にあるセット・ボタン(S)を押してください。ボタン(S)を押しながら、それぞれの専用メモリーのボタンのいずれかを押し、新しい設定内容を保存します。

4. ペダル・ボタン(P) : 第1手鍵盤、第2手鍵盤、第3手鍵盤、それぞれのメモリーの横にあるPボタンは、足鍵盤を第1手鍵盤、第2手鍵盤、第3手鍵盤に組み合わせる(カプラー)機能を持ちます。

5. エンクローズド・ボタン(ENC) : このボタンを押せば、第3手鍵盤用のエクスペッションペダルを使って、オルガン全体の音量を調節することができます。

6. ボイスバリエーションボタン(V.V.) : このボタンを押せば、オルガンのサウンドをバロック(オン)←→ロマンティック(オフ)に切り替えることができます。

7. IIIボタン : このボタンを押せば、第3手鍵盤のレジスターが第2手鍵盤でも演奏できるようになります。

8. Iボタン : このボタンを押せば、第1手鍵盤のレジスターが第2手鍵盤でも演奏できるようになります。

9. チャイム・ボタン(CHIMES) : このボタンを押せば、第2手鍵盤のすべてのレジスターをカットし、チューブラー・ベルの音を出すことができます。

10. 自動ペダル・ボタン(A.P) : 第1手鍵盤を演奏する際、このA. Pボタンを押すと、足鍵盤のレジストレーションが鍵盤の最も低い音に加わります(但し足鍵盤数の範囲内)。たとえば、左手でC, E, G(ド、ミ、ソ)と同時に弾くと、最低音C(ド)にだけ足鍵盤の音のCが加わり、手鍵盤のみの演奏でも足鍵盤のストップの効果が得られます。

<注意> A.P使用時は、足鍵盤は使えません。

11. トウッティ・ボタン(T) : このボタンを押せば、あらかじめ設定したレジストレーションをすべて作動させることができ、瞬時にフルオルガンの状態(ほとんどのストップが入っている状態)になります。この操作は、ピストンでも行うことができます。

<注意> トウッティではボイスモジュレーションやトレモロはかかりません。

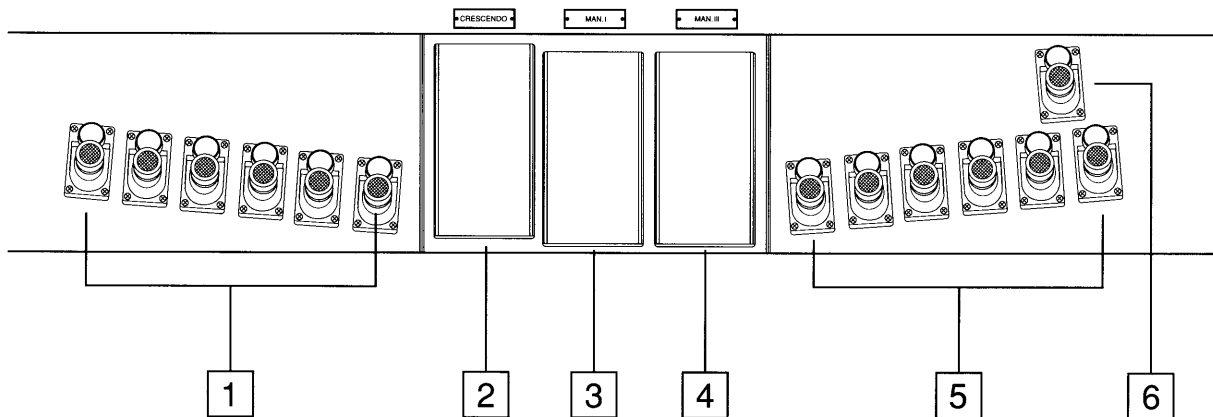
12. セット・ボタン(S) : このボタンは、メモリーをセッティングする時に使います。

13. マニュアル・リバースボタン(M.R) : このボタンを押せば、第1手鍵盤で第2手鍵盤の、第2手鍵盤で第1手鍵盤の演奏ができます。

14. キャンセル・ボタン(C) : このボタンを押せば、オルガンのすべてのレジスターがオフになります。

15. IIIボタン : このボタンを押せば、第3手鍵盤のレジスターが第1手鍵盤でも演奏できるようになります。

第5章 ペダルおよびピストン部のコントローラー



1. ジェネラルメモリー・ピストン：このピストンでジェネラルメモリーが作動します。(詳しくは、第4章ジェネラルメモリーの項をご参照ください)

2. クレッシェンドペダル：このペダルを踏み込むことで、オルガンの全セクション(第1, 2, 3の各手鍵盤部と足鍵盤部)で作動するレジストレーションを段階的に増やしていくことができ、最後にフルオルガンの状態となります。ペダルを戻すとレジストレーションの数は減っていきます。

3. 第1手鍵盤用エクスプレッションペダル：第1手鍵盤(MAN I)の音量を調節します。

4. 第3手鍵盤用エクスプレッションペダル：第3手鍵盤(MAN III)の音量を調節します。また、第3手鍵盤の下のENCボタンを押すと、このペダルでオルガン全体の音量を調節することもできます。

5. カプラーピストン：このピストンでカプラーが作動します。(詳しくは、第2章カプラーの項をご参照ください)

6. トウツティ・ピストン：このピストンで、あらかじめ設定したレジストレーションをすべて作動させることができ、瞬時にフルオルガンの状態になります。

第6章 トウツティとクレッシェンドのプログラム

1. トウツティのプログラム

トウツティで作動するレジスターを設定するには、まずトウツティ・ボタン(T)あるいはトウツティ・ピストン(TUTTI)を押して、この機能を作動させてから、希望するレジストレーション構成に設定変更します。新しい設定は、セット・ボタン(S)を押しながら、もういちどトウツティ・ボタンを押してください。

2. クレッシェンドのプログラム

クレッシェンド(ペダル)のレジストレーションは、あらかじめ適当な構成に設定されていますが、以下のプログラム作成手順にしたがい変更することができます。

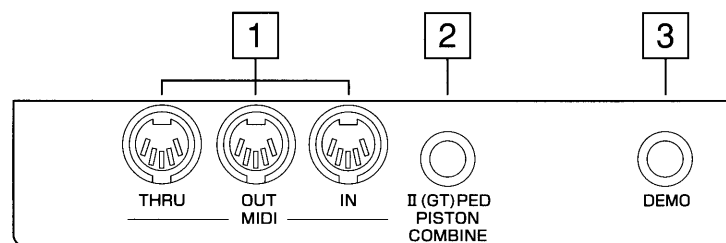
- ・クレッシェンドペダルを踏み込んで、音量の切り替えのレベルを選びます。選んだレベルは、フロントパネルの“crescendo”という文字の下にLED表示されます。
- ・希望するレジストレーションを追加していきます。
- ・セット・ボタン(S)を押して、追加した設定内容を保存し、ジェネラルメモリーのHRボタンを押して、新しい設定を保存します。

<注意>

トゥッティ用レジスターをオンにしないでください。オンになっている場合、追加変更した内容は新しいクレッシェンド用レジストレーションとしては保存されず、トゥッティ用レジストレーションとして保存されることになります。

第7章 サイドパネルのコントローラーと接続端子

左サイドパネル



1. MIDIイン・アウト・スルー：オルガンをMIDI音源に接続するためのMIDI接続端子があります。

MIDI機能を使用するためには、データをやりとりするためのMIDI機器とその機器を接続するためのMIDIケーブルが必要です。MIDI機器は通常、以下の3つのMIDI接続端子を備えています。

MIDIイン：他のMIDI機器からMIDIデータを受信するための端子。

MIDIアウト：本機からMIDIデータを送信するための端子。

MIDIスルー：MIDI機器を直列接続するために、MIDIイン・ポートで受信したMIDIデータをそのまま送ります。

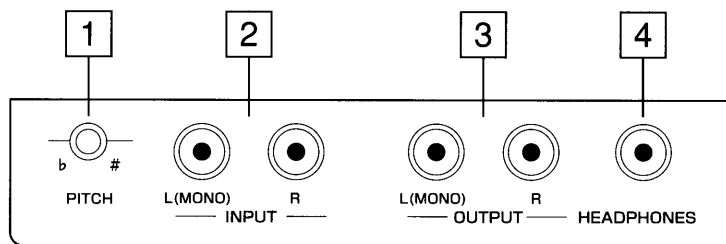
2. 第2手鍵盤(II・GT)メモリーから足鍵盤メモリーへ(II(GT). PED. PISTON COMBINE)：このボタンを押せば、第2手鍵盤のメモリーボタン上で、足鍵盤の同じ番号のメモリーが作動します。ただし、このカプラー機能は双方向対応ではないため、足鍵盤部に特定のメモリーを呼び出しても、第2手鍵盤上の対応するメモリーを作動させることはできません。

3. デモ・ボタン(DEMO)：このボタンを押せば、あらかじめオルガン本体にメモリーされている8つのクラシックデモ曲のいずれかを呼び出すことができます。デモ・ボタンを押しながら、第3手鍵盤左上のパネル表示番号1～8の鍵盤を押します。聴きたい番号に対応したデモ曲が選択できます。

ジュビレイト デモ曲

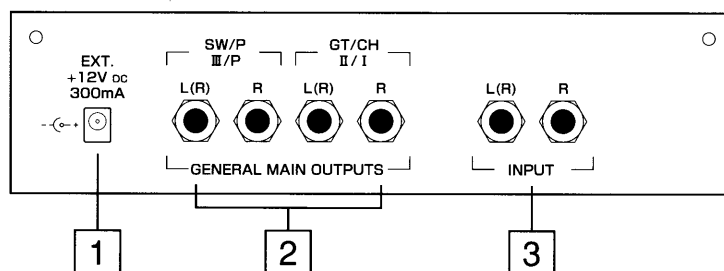
- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. ボエルマン | 間奏曲 |
| 2. ヘンデル | 行進曲 ト長調 |
| 3. J.S.バッハ | 小前奏曲とフーガ No.4 へ長調 BWV556 |
| 4. シャルパンティエ | 凱行行進曲(テ・デウムより) |
| 5. J.S.バッハ | 前奏曲とフーガ ホ短調 BWV533 |
| 6. J.S.バッハ | コラール 147「主よ、人の望みのよろこびを」 |
| 7. ワーグナー | 「婚礼の合唱」(ローエングリンより) |
| 8. メンデルスゾーン | 「結婚行進曲」(真夏の夜の夢より) |

右サイドパネル



- 1. 全体ピッチ：**このボタンでオルガン全体のピッチを微調整します。納品時のジュビレイトは、A=440Hz(ピッチ調節ノブは中央に配置)に初期設定されています。レンジ=433Hz~448Hz
- 2. インプット L(MONO)-R：**オルガン本体のスピーカーで外部音源を鳴らすための接続端子。モノラル音源を入力する場合は、の接続端子を L(MONO)の接続端子を使います。
- 3. アウトプット L(MONO)-R：**アンプを使用せず、直接録音したい時に使用するラインアウト出力端子。この接続端子は一般に、カセットレコーダーなどのアナログ録音機器での録音に使います。モノラルでの録音の場合は L(MONO)の接続端子のみ使います。
- 4. ヘッドホン端子：**ステレオヘッドホン用の接続端子。ヘッドホンを接続すると、オルガン本体のスピーカーからは音が出ません。

第8章 リアパネルの接続端子



1. EXT + 12V DC コネクター： +12ボルトの電圧が得られる接続端子があります。通常は、リモート (REMOTE)機能として利用します。つまり、メイン・アウトプットに接続したオプションのスピーカーのスイッチを作動させるために使います。

2. メイン・アウトプット： 外部出力用の端子が4つついています。

以下のようにスピーカーに接続します。

1つのスピーカーだけを使う場合には、Ⅲ/Pの出力 L(R)を使ってください。オルガン全体(第1手鍵盤+第2手鍵盤+第3手鍵盤+足鍵盤)の信号が得られます。

・Ⅱ/I L(R)-R：第2手鍵盤および第1手鍵盤用のステレオ出力端子。1つのスピーカーだけを使う場合は出力 L(R)を使います。

3. インプット L(R)-R： 外部音源をオルガン本体のアンプで増幅し、ステレオ入力するための端子です。モノラル音源の場合には、L(MONO)端子のみご使用ください。

第9章 リセットとローカルオフ

リセット

楽器の調子が悪い、あるいは保守点検をご依頼いただく前に、以下のリセット手順を実行してください。

・ジェネラルメモリーのHR,1,2の3つのボタンを押し、オルガンのスイッチを入れます。2,3秒後に押していたHR,1,2のボタンを離します。

ボイスのローカルオフ

ジュビレート332Sが、外部MIDI音源を操作している場合には、複数の音声(voice)を「ローカルオフ(Local off)」モードに切り替える必要が出てくるかもしれません。ある音声はローカルオフ・モードとなり、レジスターが開いていれば、サウンドジェネレーターを動かさなくても(音声はミュート)MIDIコードのみが送出されます。

複数の音声をローカルオフ・モードに設定するには、セット・ボタン(S)を押し、それを押し続けながら、キャンセル・ボタン(C)を押します。すると、作動している音声のランプがすべてつきます。セレクターを使って、ローカルオフを解除するか各音声の通常の操作を作動させることができます。この操作モードではセレクターの灯りが消えている場合、音声発生は働いていません。セット・ボタンとキャンセル・ボタンを押せば再び通常の操作に戻ります。

資料 MIDIインプリメンテーションチャート

ヴァイカウント ジュビレイト332S

バージョン：1.0

| 機能 | | 送信 | 受信 | 備考 |
|---------------|--|-------------|------------------|----------------------------------|
| ベーシックチャンネル | デフォルトチェンジ | 1-4 1-16 | 1-4 1-16 | 1：第3手鍵盤 3：第1手鍵盤 2：第2手鍵盤 4：足鍵盤 |
| モード | デフォルト メッセージ 代用 | モード3 × | モード3 × | |
| ノートナンバー | トゥルーボイス | 24-106 | 24-106 24-106 | |
| ペロシティ | ノート・オン ノート・オフ | × | × | |
| アフタータッチ | キー チャンネル | × | × | |
| ピッチベンダー | | × | × | |
| コントロールチェンジ | 7 11 | ○ ○ | ○ ○ | メインボリューム エクスプレッション |
| プログラムチェンジ | トゥルー# | 0-127 | × | |
| システム・エクスクルーシブ | | ○ | ○ | |
| システム(コモン) | ソングポジション ソングセレクト チューン | × | × | |
| システム(リアルタイム) | クロック コマンド | × | × | |
| オグジュアリーメッセージ | ローカルオン・オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット | × | × | |

モード1：オムニ・オン、ポリ
モード3：オムニ・オフ、ポリ

モード2：オムニ・オン、モノ
モード4：オムニ・オフ、モノ

○=イエス
×=ノー

注意!

■リチウム電池の警告：本製品にはリチウム電池が使われています。電池を間違えて取り替えると爆発の危険があります。必ずMaxell CR2032を使用してください。正しい極性でご使用ください。使用済み電池は、メーカーの指示にしたがって処分してください。

■商品の品質向上のため、お断りなく仕様・規格を変更することがあります。本取扱説明書に記載された情報も、それにとれない予告なしに変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。

viscount®
CLASSIC ORGANS

発売元

ヤマハ株式会社 国内楽器営業本部 施設営業推進室

ホームページアドレス：<http://www.yamaha.co.jp/hall/>

東京 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 (日本生命高輪ビル) TEL.03-5488-1676
大阪 〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 (心斎橋プラザビル東館) TEL.06-6252-5753
名古屋 〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052-201-5145

総輸入元

ヤマミュージックトレーディング株式会社

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-5 蛸殻町Fビル7F TEL.03-5641-1031

ホームページアドレス：<http://www.y-m-t.co.jp>